

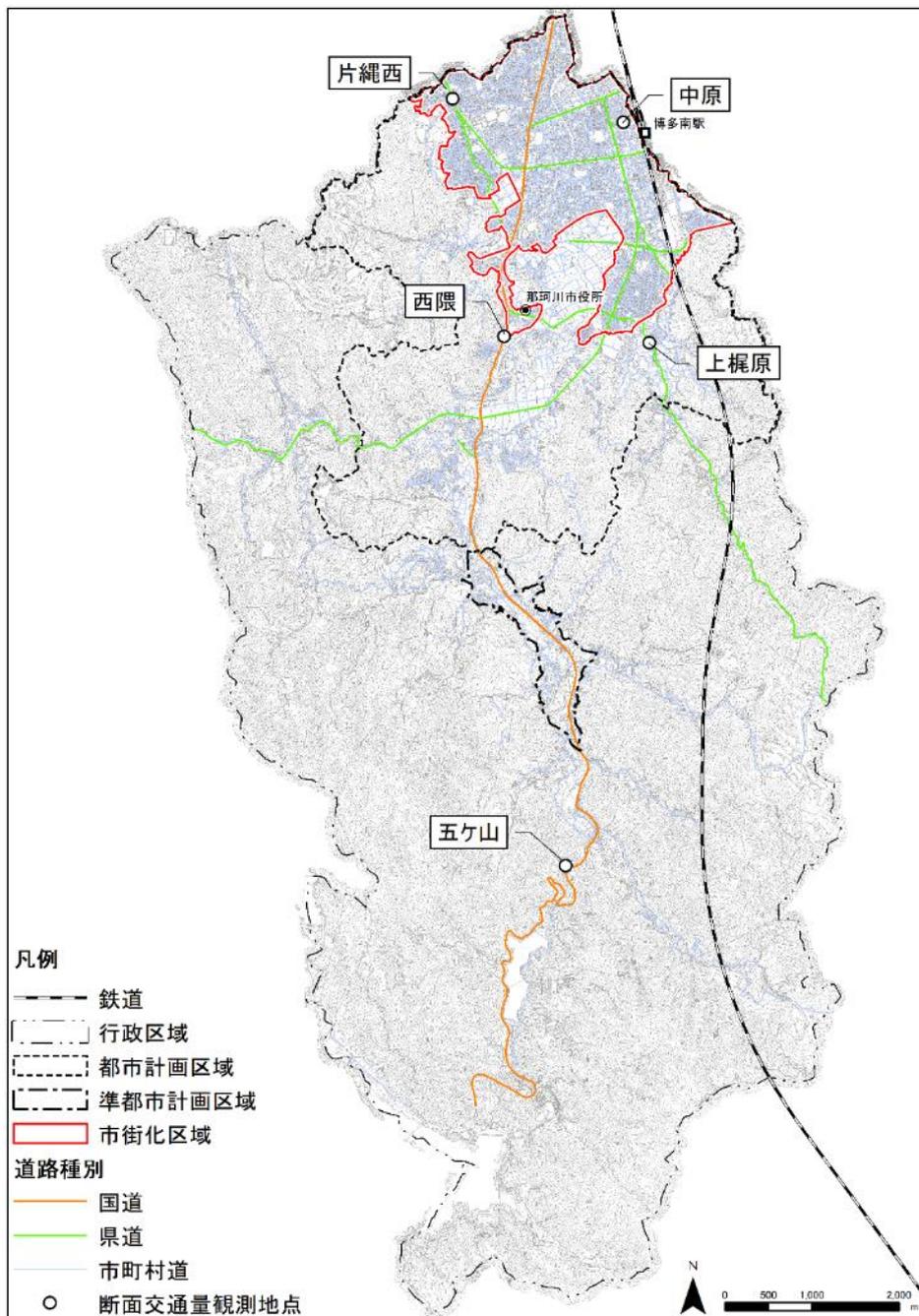
1-8 道路・交通

1-8-1 道路網

● 県道後野福岡線の都市計画道路未決定部分も交通量が多い。

■ 自動車類交通量

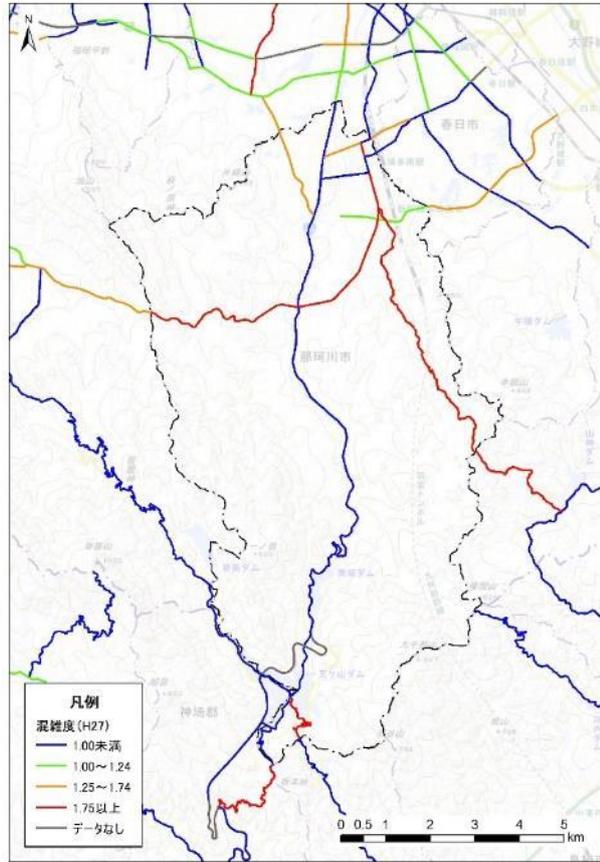
路線名	観測地点名	24時間	昼間12時間
一般国道385号	西隈2丁目14	12,400	9,764
一般国道385号	五ヶ山908-8	3,104	2,544
後野福岡線	片縄西5丁目4-1	19,191	15,111
福岡早良大野城線	中原2丁目111	2,233	1,758
平等寺那珂川線	上梶原大字899-5	1,845	1,567



資料：平成 27 年交通センサス

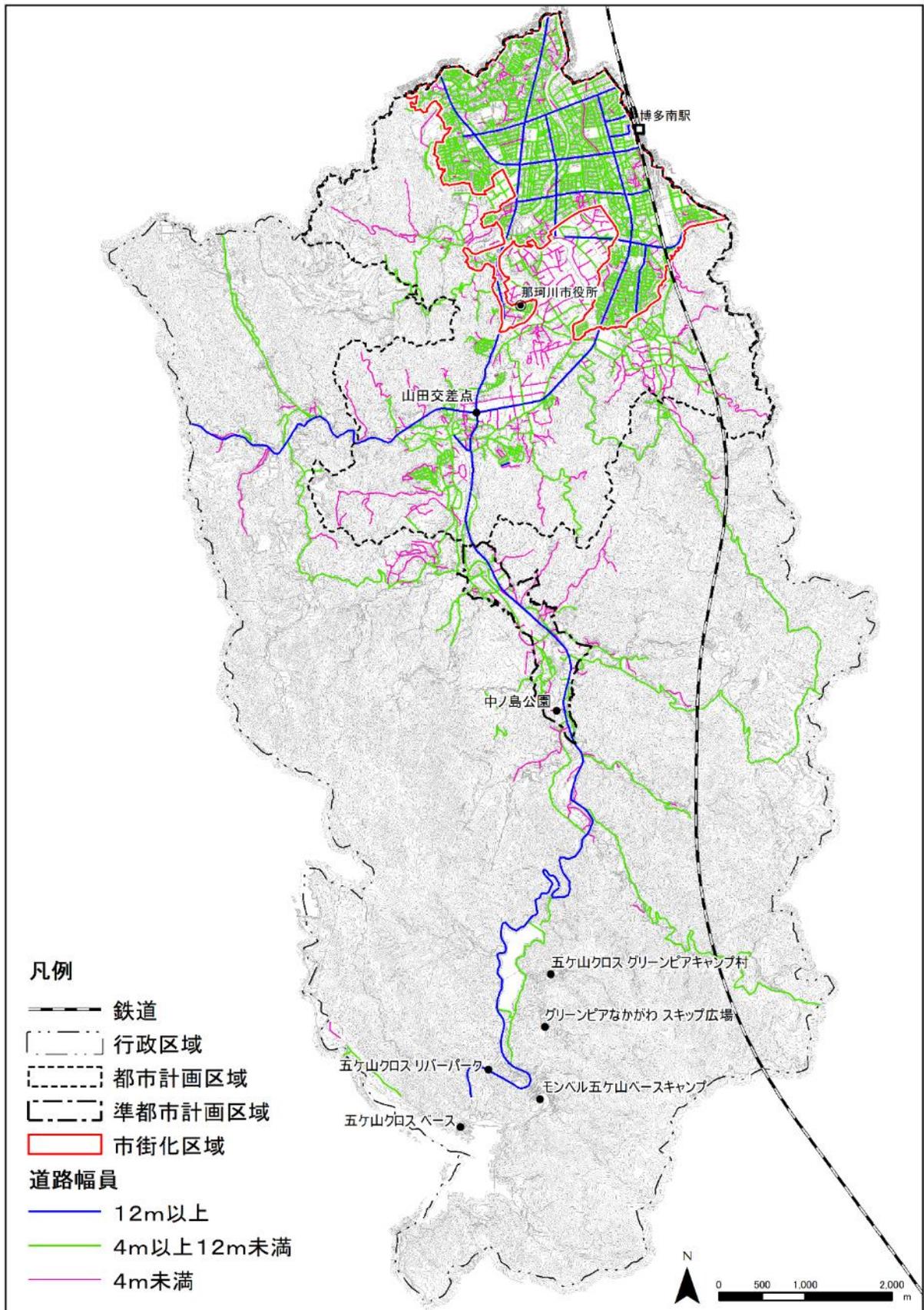
■24 時間交通量

■混雑度



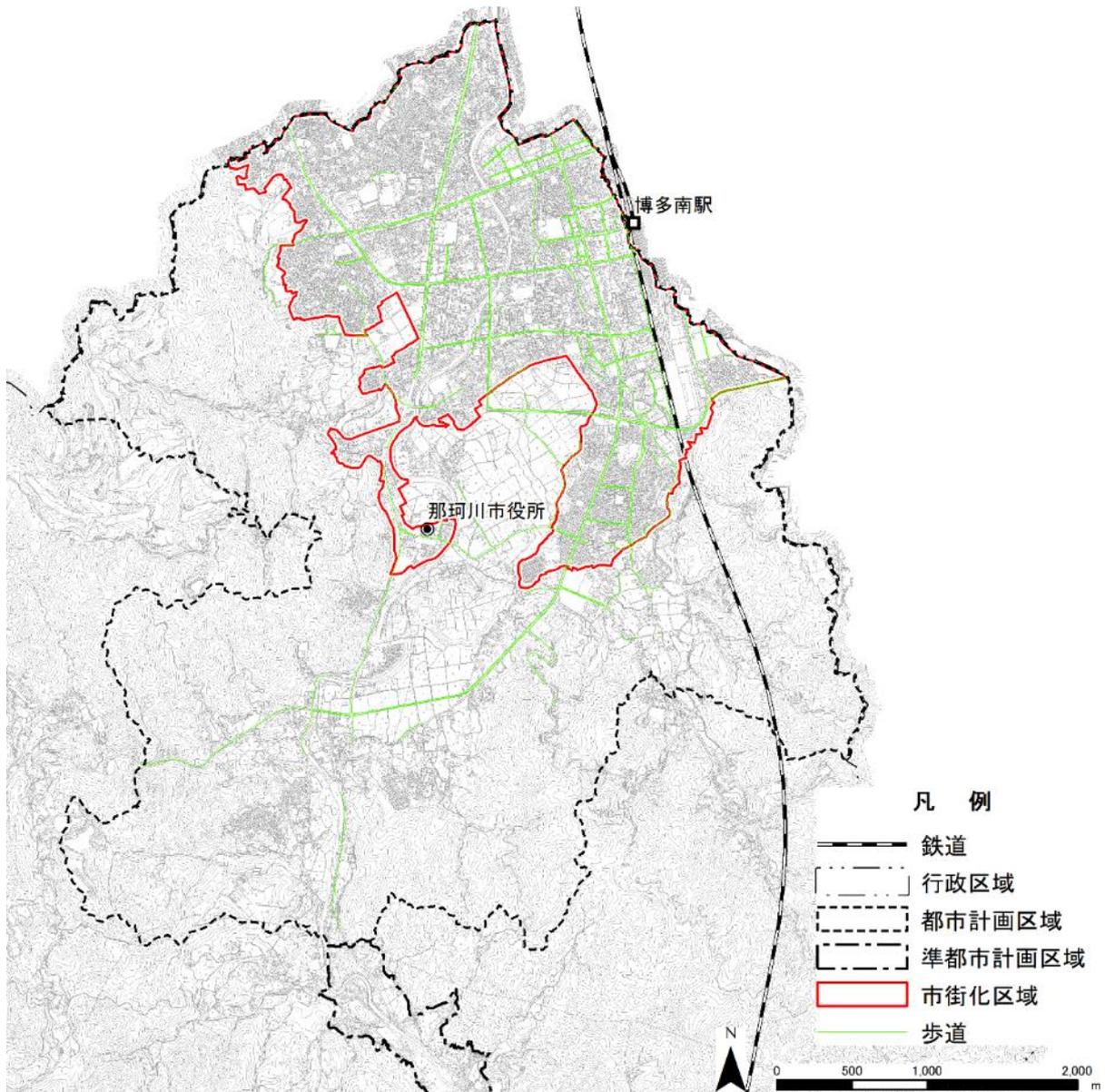
資料：平成 27 年交通センサス

■幅員別道路網図



資料：平成 29 年都市計画基礎調査

■歩道の設置状況（市街化区域）

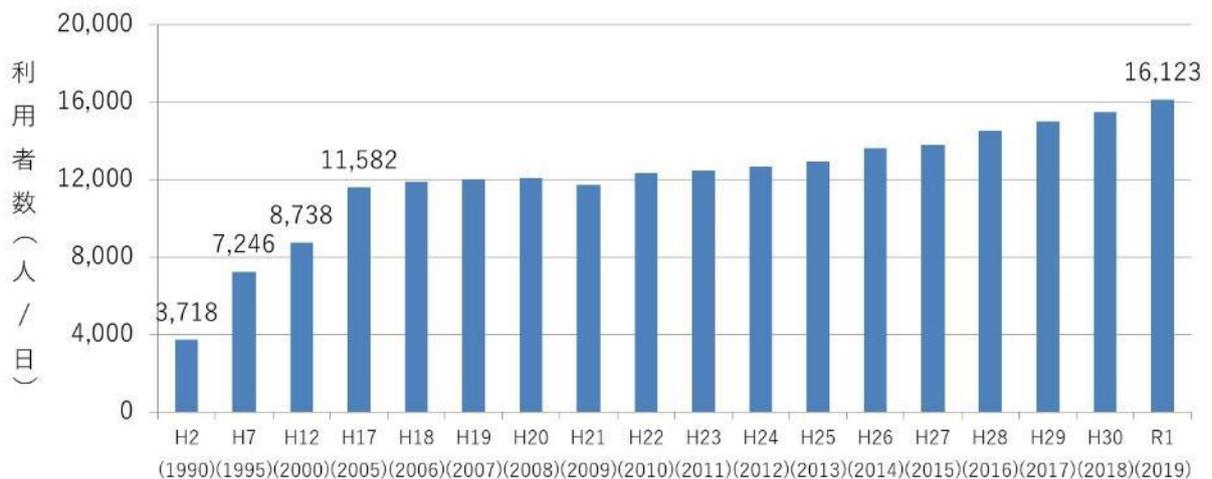


資料：基盤地図情報（国土地理院） 道路構成線データ（平成31年3月時点）

1-8-2 鉄道・バス

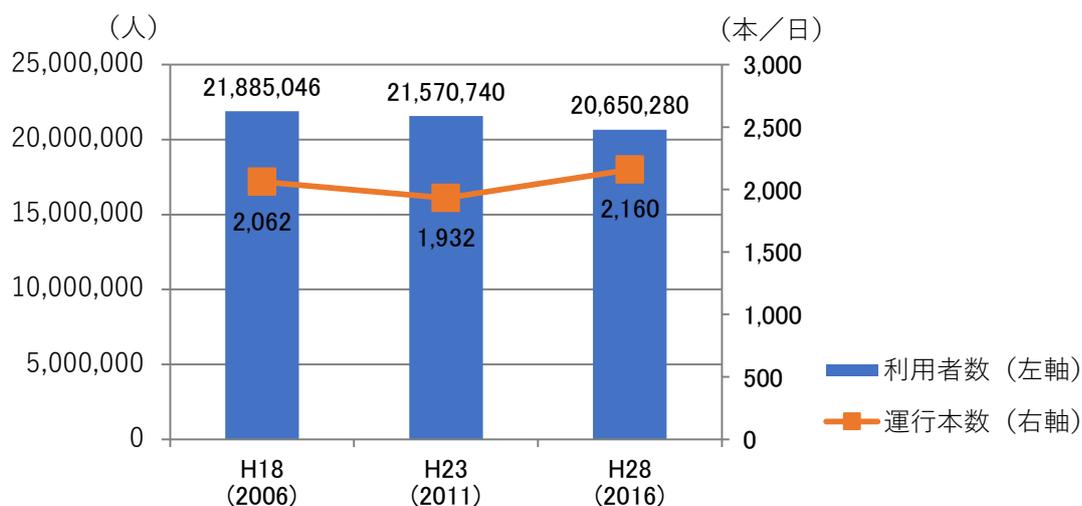
- 博多南線の1日平均利用者は増加傾向であり、平成30年(2018年)は1日平均約1.5万人が利用。
- 西鉄バスの利用者数は減少傾向で、平成18年度(2006年度)から平成28年度(2016年度)で約6%減少。
- 平成21年度(2009年度)から、公共施設等を循環するコミュニティバス「かわせみ」の運行を開始。その後、西鉄バスの廃止路線を補完するように路線を追加し、また利用者のニーズにあわせダイヤ改正を行った結果、かわせみバスの利用者数は増加傾向。平成28年度(2016年度)は平成21年度(2009年度)と比べ運行本数が約4倍、利用者数は約9倍。
- 交通不便地域における実証運行を経て、令和2(2020)年よりデマンド交通を運行。

■JR博多南線利用者数の推移



資料：JR西日本資料

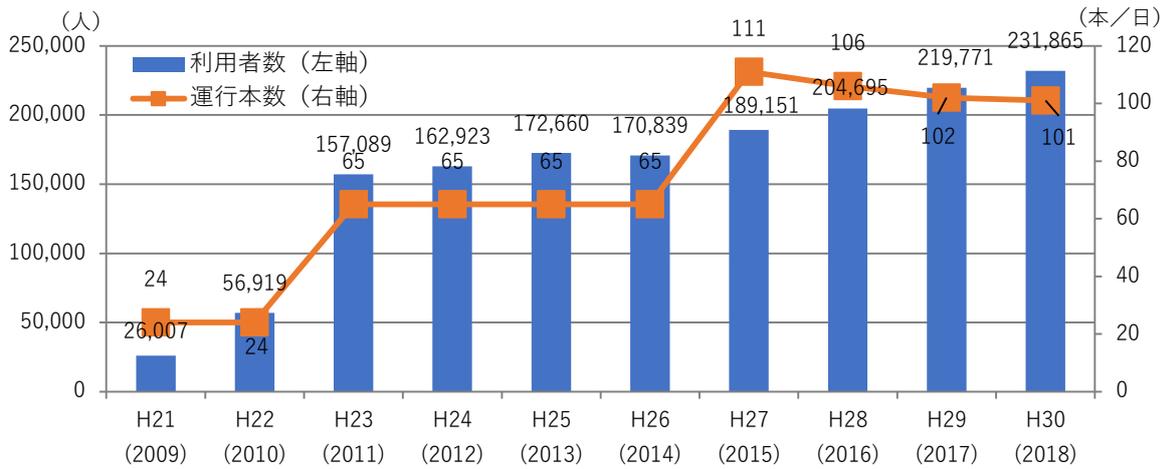
■西鉄バスの利用者数及び運行本数の推移



資料：庁内資料(西鉄バスの運行状況)

※平成26年度より運行本数の集計方法が変わった(変更前：往復で1本 変更後：往路・復路それぞれ1本)ため、平成18年度および平成23年度の運行本数を2倍として集計

■かわせみバスの利用者数及び運行本数の推移

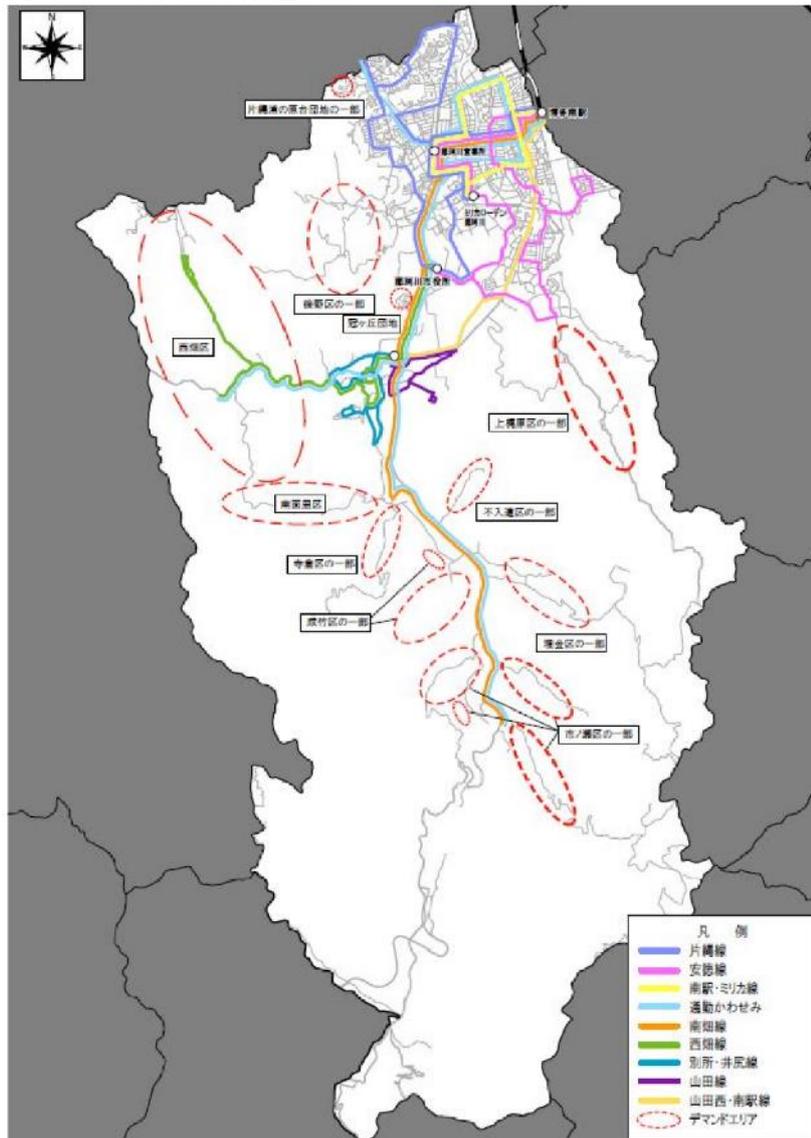


資料：庁内資料（かわせみバス運行本数の推移）

※かわせみバスは平成 21 年度より運行開始、南部かわせみバスは平成 23 年度より運行開始

※平成 27 年度に路線を大幅見直し、平成 28 年度に便数を一部見直し

■かわせみバス及びデマンド交通の配置状況



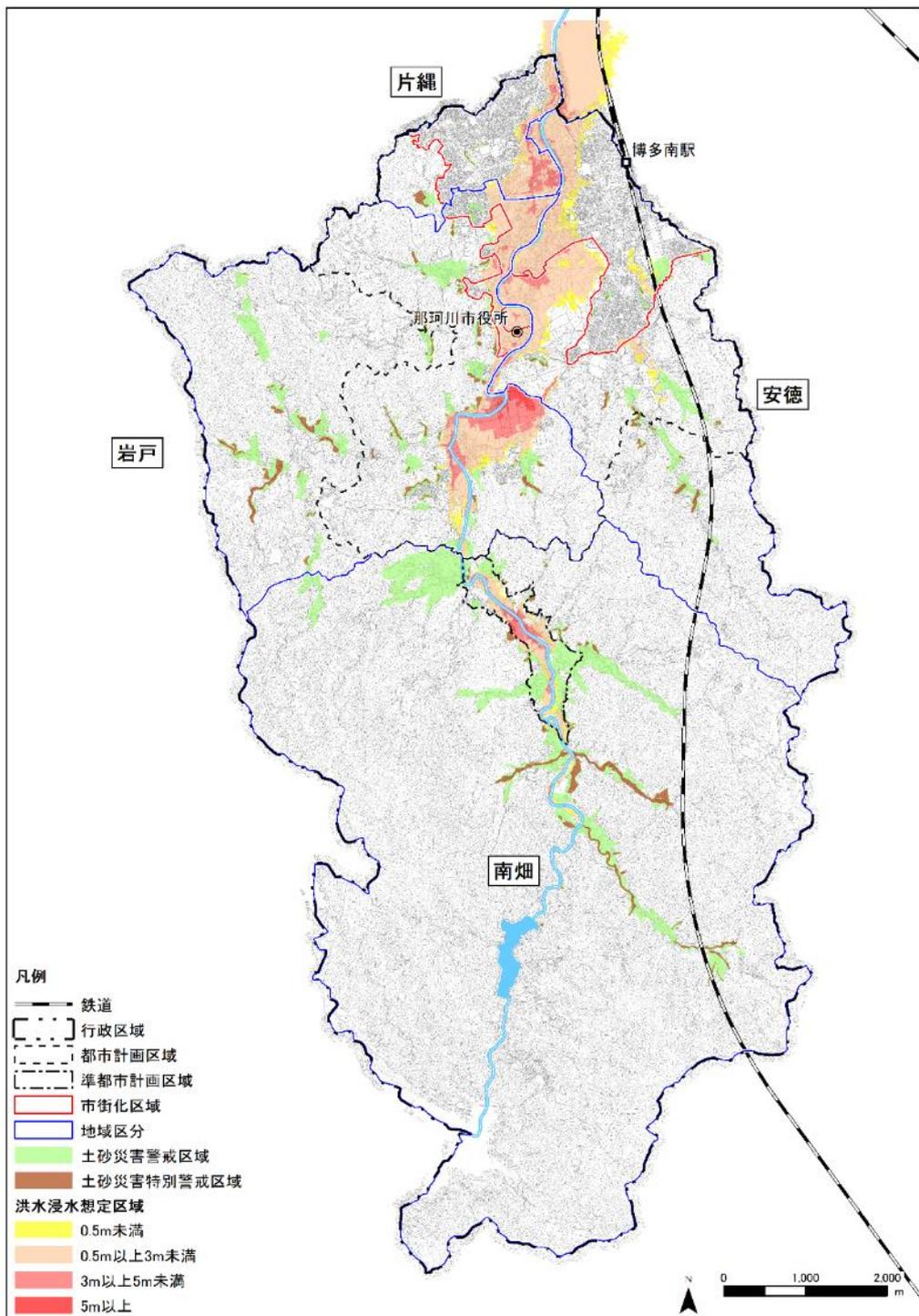
資料：第3次那珂川町地域公共交通網形成計画（令和2年3月）

1-9 災害

1-9-1 災害危険区域等

- 那珂川の両岸部に浸水想定区域が指定。最大 5m 以上の浸水が想定される。
- がけ下・山すそ部は土砂災害の危険性。

■災害危険区域等



資料：国土数値情報（土砂災害警戒区域）

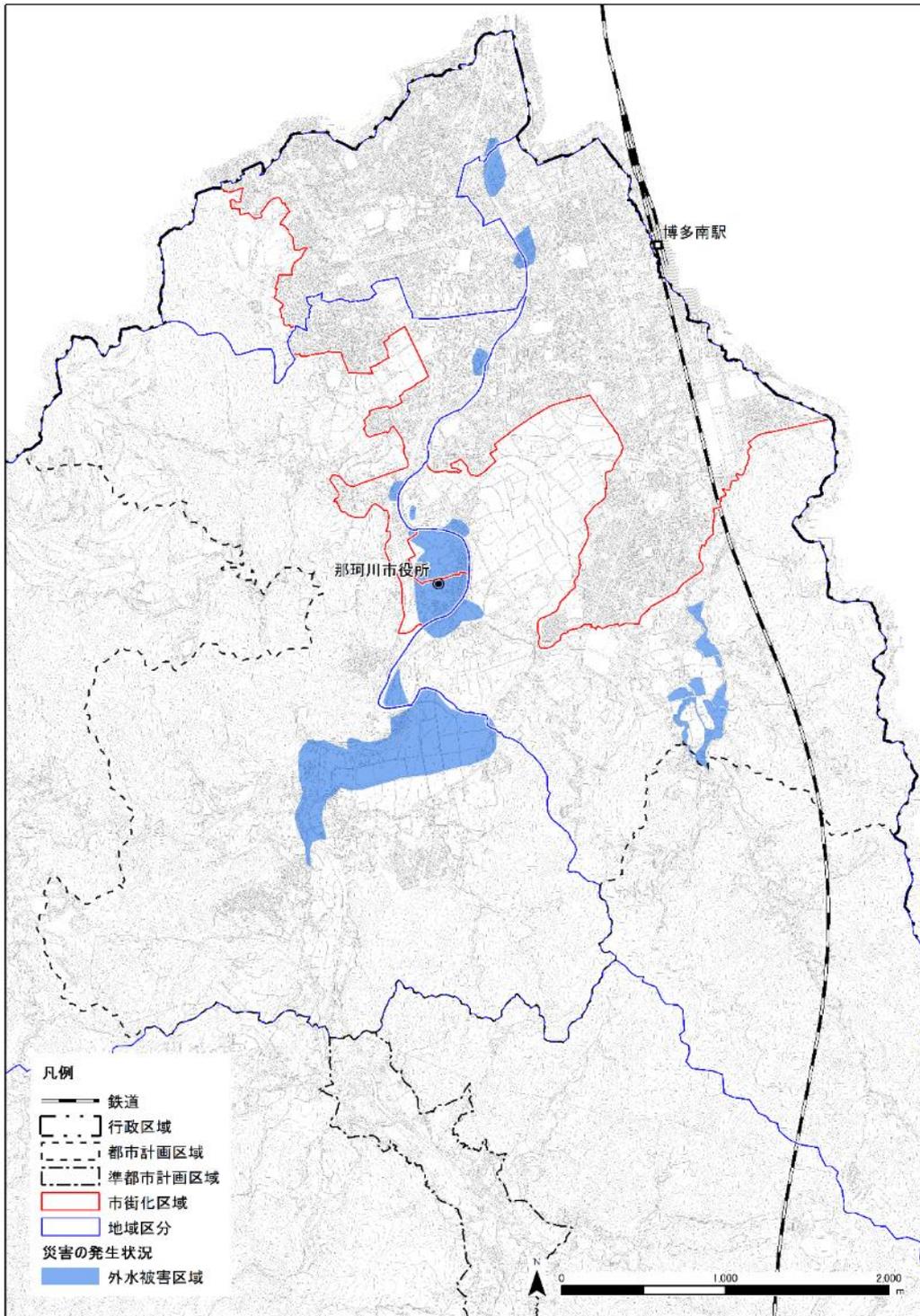
那珂川水系那珂川 洪水浸水想定区域図（平成30年4月27日公表）

1-9-2 災害の発生状況

●平成 21 年(2009 年)の中国・九州北部豪雨では、市役所周辺や山田、今光等で外水被害が発生。

名称・地区名	発生年月日	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨	H21.7.24~26	73	125

■平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨における被害状況

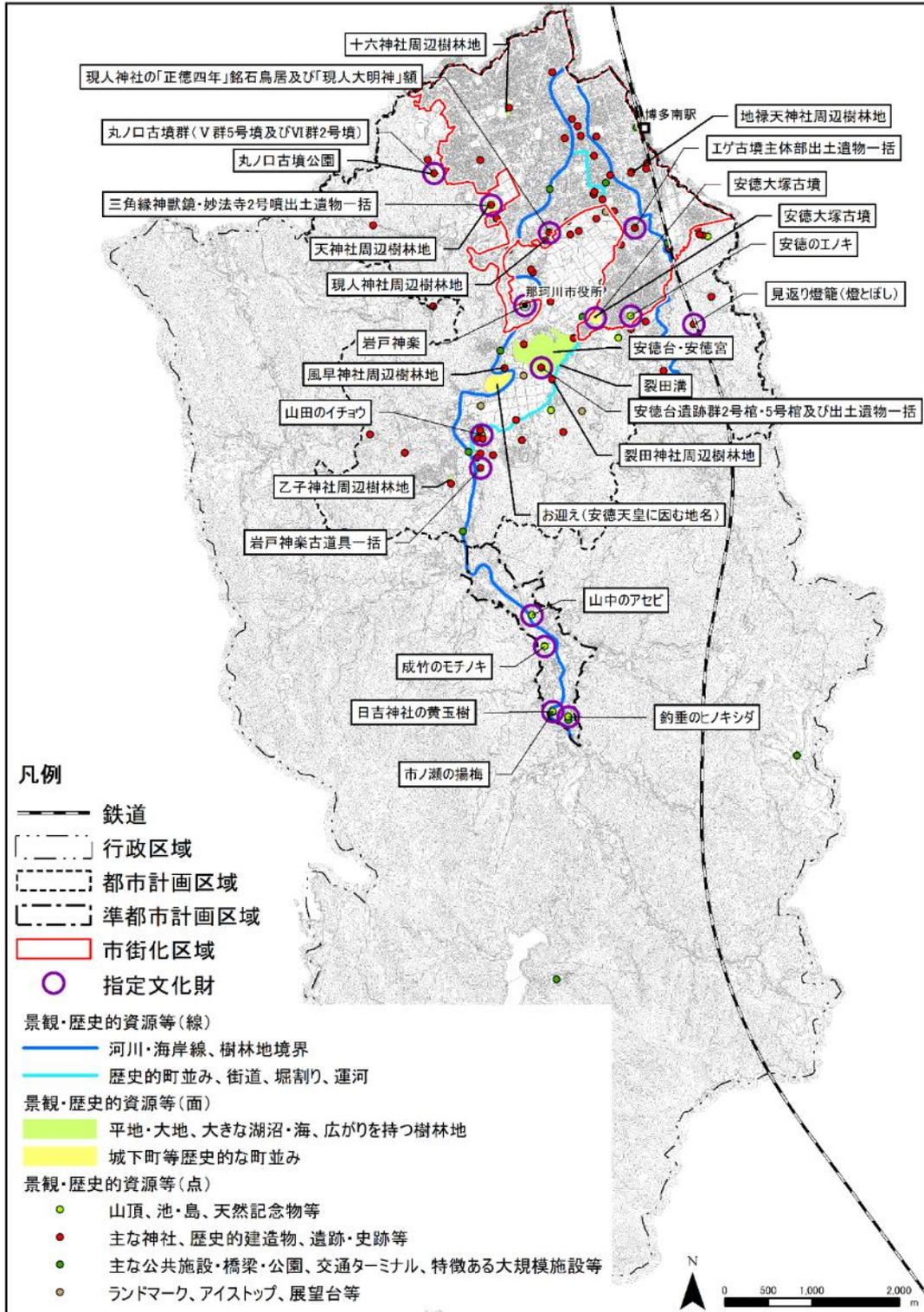


資料：平成 29 年都市計画基礎調査

1-10 文化財

- 都市計画区域内には安徳台、丸ノ口古墳公園、丸ノ口古墳群など多くの文化財が点在。
- 平成28年(2016年)に安徳大塚古墳が国史跡に指定。

■文化財分布図



資料：都市計画基礎調査

1-11 市民活動

●市内では多くの市民団体が活動。

■市内で活動する団体等（抜粋）

	団体名	概要・活動内容
まちづくり	那珂川町竹プロジェクト (総合戦略)	・美しい町を保ち続けるため、竹を有効活用しつつ、竹林を再生するという循環型の活動 ・町内の山林で繁殖し続ける竹林を整備し、環境保全に取り組む。整備の時に伐採した竹を有効活用し、竹細工や竹灯籠を作り、イベントに活用。その後伐採した竹や灯籠に使った竹は、水の清浄化や堆肥にするため竹炭へ加工。
	NPO 法人『空き家革命』	・空き家の所有者に対して、建築・不動産に関する事業を行い、空き家周辺の住民の生活の安全と環境悪化の進行による健康被害の防止等に寄与
	NPO 法人 絆・なかがわ	・市民活動の担い手の育成事業や活動を促進する事業を実施 ・地域住民が自由かつ主体性を持って関わっていくことができるよりよい社会の実現へ寄与
	博多南駅前を考える会	・博多南駅周辺の花植えや博多南駅前ビルのイルミネーションなどの企画を実施
環境保全	川を住民の手で美しくする会 (総合戦略)	・平成 12 年、市のシンボルである那珂川をきれいにしていこうと市内の有志によって発足、年に2度の清掃活動を実施 ・河川の浄化に取り組む ・平成 13 年から清流の象徴である鮎の稚魚の放流を実施。 ・事務局：市シルバー人材センター ・川きれい運動の事務局。(年 1 回、海の日に実施)
	自然環境観察員	・ボランティアで市内の動植物・自然環境を観察し、市へ報告 ・市内外から 20 名程度参加。
	なかがわの環境を考える会 (総合戦略)	・市環境基本計画策定にあたり、市民の声を聞くために平成 14 年「なかがわの環境を考える会」を公募。 ・応募したメンバーが、当時の市長に提言書を提出後、あらためて同じ名称のボランティア団体を設立。 ・生活環境改善と自然環境保全
	NPO 法人 南畑ダム・五ヶ山ダム・那珂川水源流域ネットワーク	・南畑ダム・五ヶ山ダム・那珂川水源流域の森林・河川等の自然環境を守り、育て、安全で良質な水を次の世代に引き継ぐため、森林の保全・育成事業、河川の保全・美化事業、動植物の保護・育成事業を実施 ・自然体験事業、木工・農産物の振興事業による地域の活性化、地域社会に寄与

	団体名	概要・活動内容
歴史	NPO 法人夢・すすむプロジェクト	・広く町民に対して町内に伝わる伝統文化、貴重な歴史遺産の継承、支え合う住環境の創造支援の事業を関係する活動団体、地域と一体となって展開、潤いのあるまちづくりの推進に寄与
	那珂川市の歴史を学ぶ会	・平成 25 年発足、会員 24 名 ・「次世代にふるさとの歴史と文化を伝える」という思いをもった仲間が集まり、那珂川市の歴史や文化を学習。 ・その成果を「次世代に伝えたいこと」として冊子を作成。平成 26 年に『肥前・筑前街道-背振坂越』を、27 年に『さいふまいるの道』を、30 年に『語り継ぎたい裂田溝』を刊行
	郷土史研究会	・郷土史の研究とその普及、文化財保護を目的として活動。ミリカローデン那珂川などで郷土史に関する講座を行っている
	歴史ガイドボランティア	・安徳台・裂田溝や市内全域の史跡を対象に活動 ・市内にある歴史や名勝などの文化財の学習を通じ、会員相互の親睦を図るとともに文化財の保護並びに普及を目的に活動 ・市の歴史を広めるとともに、市のイメージアップを図ることを目的に史跡ガイドを実施

資料：内閣府 NPO 法人ポータルサイト、那珂川市ボランティア支援センターくるりんぽ HP 等を参考に作成

※団体名の後ろの（ ）は関連計画等

## 第2章 上位・関連計画と社会動向の整理

### 2-1 上位・関連計画

#### 2-1-1 福岡都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和3年4月）

##### ■都市づくりの基本理念

- 1) 持続可能な、快適で魅力ある都市生活を支える集約型の都市づくり
- 2) 安全で快適な生活を支える都市づくり
- 3) 自然環境に囲まれ、環境と共生する都市づくり
- 4) 活気にあふれた個性が輝く都市づくり
- 5) 多様な主体が参画するまちづくり

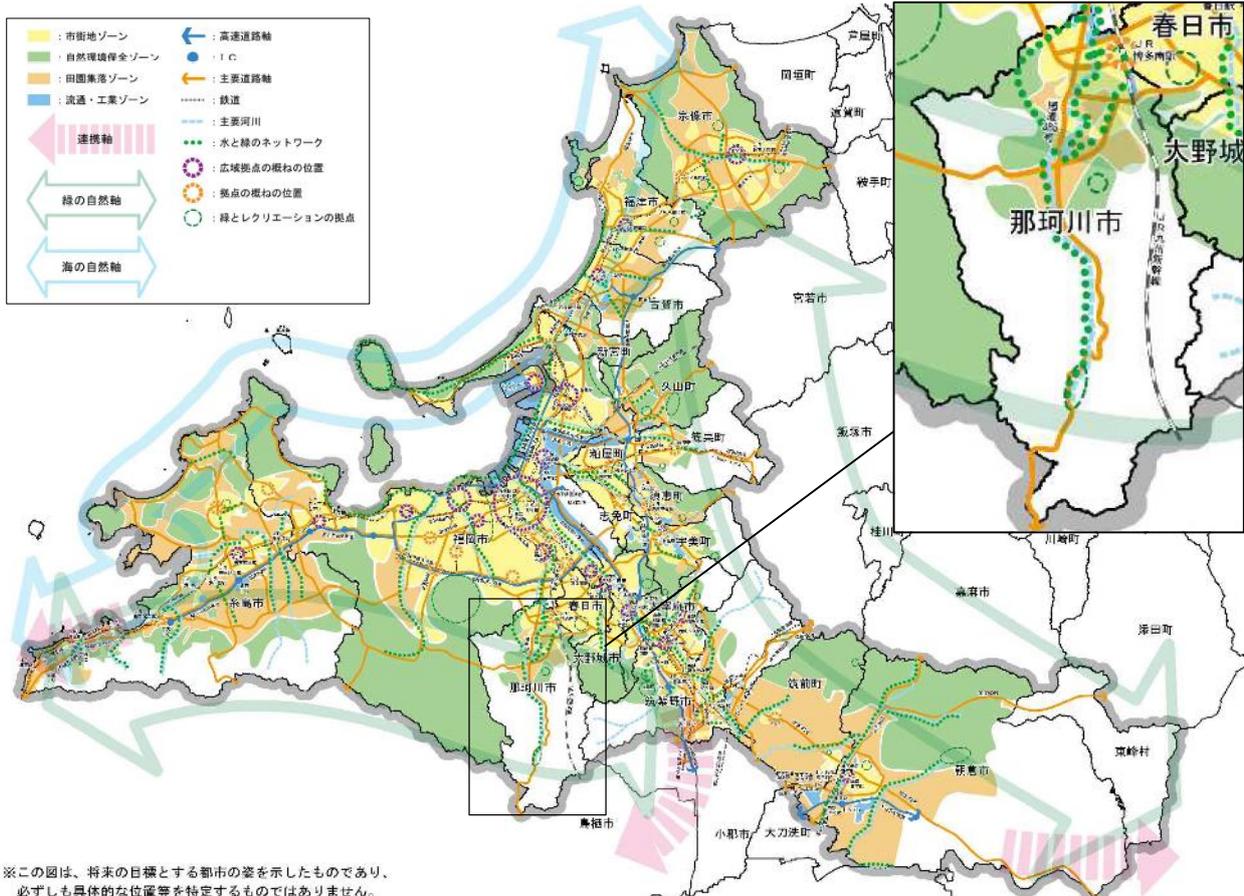
##### ■都市づくりの目標

「福岡市を中心とする多心ネットワーク型都市構造の形成により、国際中枢都市圏※を目指す 福岡都市圏」

※国際中枢都市圏：国際情報発信機能や学術研究機能、国際交流・物流機能が集積して、国際的な交流の中心となる都市圏のこと。

##### ■将来像図

博多南駅周辺が拠点として位置づけられている



※この図は、将来の目標とする都市の姿を示したものであり、必ずしも具体的な位置等を特定するものではありません。

※平成29年1月24日の都市計画区域の統合(福岡県決定)により、「那珂川都市計画区域」は「福岡広域都市計画区域」へ変更。

2-1-2 那珂川市総合計画（令和3年3月）

■計画期間

【基本構想】令和3年度(2021年度)～令和12年度(2030年度)

■将来像

笑顔で暮らせる自然都市なかかわ～これからも住み続けたい協働のまちを目指して～

■施策大綱

1. 【くらし安心】支えあい、安心に暮らせるまちづくり
2. 【子育て教育】誰もがとともに学び、育むまちづくり
3. 【住みやすさ】自然と調和した快適に暮らせるまちづくり
4. 【自然】自然の豊かさを感じるまちづくり
5. 【活力】地域の資源を生かした活力あふれるまちづくり

施策大綱	基本施策	施策の概要
<b>施策大綱1</b> 「支え合い安心に暮らせるまちづくり」	コミュニティ	1 地域による地域力を発揮できる協働社会を推進する (1) 市民参画の推進 (2) 【地方創生】 多様な主体をつなぐ体制の構築 (4) 地域コミュニティの活性化
	防災・防犯	2 市民の安全な暮らしを守るまちを構築する (1) 消防体制の充実 (2) 防災体制の充実・強化 (3) 災害に備える社会基盤の強靭化 (4) 経路・交通安全対策の充実 (5) 消火者保護の推進
	高齢者福祉	3 高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせる環境をつくる (1) 健康づくり・介護予防の推進 (2) 社会参加・生きがいづくりの推進 (2) 安心の体制づくり
	地域福祉	4 地域が共生社会、誰もがともに暮らせる社会をつくる (1) 地域福祉の充実 (2) 障がいのある人への適正な福祉サービスの提供 (3) 障がいのある人の社会参加の促進 (4) 誰もが安全に暮らせるバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進
	健康・子育て	5 市民の健康に暮らせる環境をつくる (1) 健康づくりの推進 (2) 医療体制の充実/感染症対策の推進 (3) 生活習慣の改善 (4) 社会復帰支援等の適正な施策
<b>施策大綱2</b> 「誰もがともに学び、育むまちづくり」	入籍	1 多様な世代の人間を尊重した社会をつくる (1) 入籍・同姓婚育と結婚の推進 (2) 実効的参画の推進 (3) 入籍準備への支援 (4) 男女共同参画意識、ダイバーシティ(多様性)の推進
	子育て支援	2 安心して出産、子育てできるまちをつくる (1) 【地方創生】 子ども・子育て世帯への支援 (2) 保育サービスの充実 (3) 児童虐待の防止
	学校教育	3 誰もが「生きる力」を育み子どもが育つまちをつくる (1) 学校教育の充実 (2) 地域とともにある学校づくりの推進 (2) 教育環境の充実
	社会教育	4 市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる (1) 社会教育の推進 (2) 生涯学習の推進 (3) スポーツの推進
<b>施策大綱3</b> 「自然と調和した快適に暮らせるまちづくり」	都市開発	1 自然と調和した快適な都市環境をつくる (1) 【地方創生】 賑わいある都市空間の形成
	防災・防犯	2 自然と調和した安全・快適な防災対策ネットワークをつくる (1) 避難などの普及 (2) 【地方創生】 防災対策の推進
	子育て支援	3 安全で快適な生活環境をつくる (1) 清潔な生活環境の形成 (2) 暮らしやすさの向上の推進 (2) 安全で快適な住環境の創出
	行政サービス	4 市民目線に立った行政運営の推進 (1) 効率的な行政運営の推進 (2) 健全な財政基盤の確立 (3) 協働ネットワークの活用を推進 (4) 情報公開の推進と情報活動の充実 (5) 窓口サービスの充実 (6) 革新的なまい行政運営の推進
<b>施策大綱4</b> 「自然の豊かさを 感じるまちづくり」	自然環境	1 豊かな自然環境を大切にし、活かす社会をつくる (1) 森林環境の保全 (2) 河川環境の生物多様性の保全
	環境保全	2 環境に配慮した地域社会をつくる (1) 環境物の減量と資源の循環 (2) 環境の保全と公害対策
	観光	3 自然資源を生かした観光業を振興する (1) 【地方創生】 観光の振興 (2) 【地方創生】 観光の振興
<b>施策大綱5</b> 「地域の資源を生かした 活力あふれるまちづくり」	産業・観光	1 地域の経済・雇用を支える産業を創出・育成する (1) 商工業の活性化 (2) 【地方創生】 新たな産業の育成支援 (3) 【地方創生】 地域資源を生かした観光の振興
	文化・芸術	2 歴史・文化・芸術を継いだ多様な交流を促す (1) 文化・芸術活動の充実 (2) 歴史遺産の保存・まちづくりへの活用
	交流	3 地域とつながりを築き、交流するまちをつくる (1) 【地方創生】 「集まる暮らし」の機能的なエリア活用から交流の促進 (2) 【地方創生】 居住・定住の環境づくりの強化 (3) 【地方創生】 幅広い人材の交流促進によるまちづくりの活性化

## 2-1-3 第2期那珂川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（令和2年3月）

### ■人口の将来展望

令和12年に51,705人（ピーク人口）、令和42年に48,994人

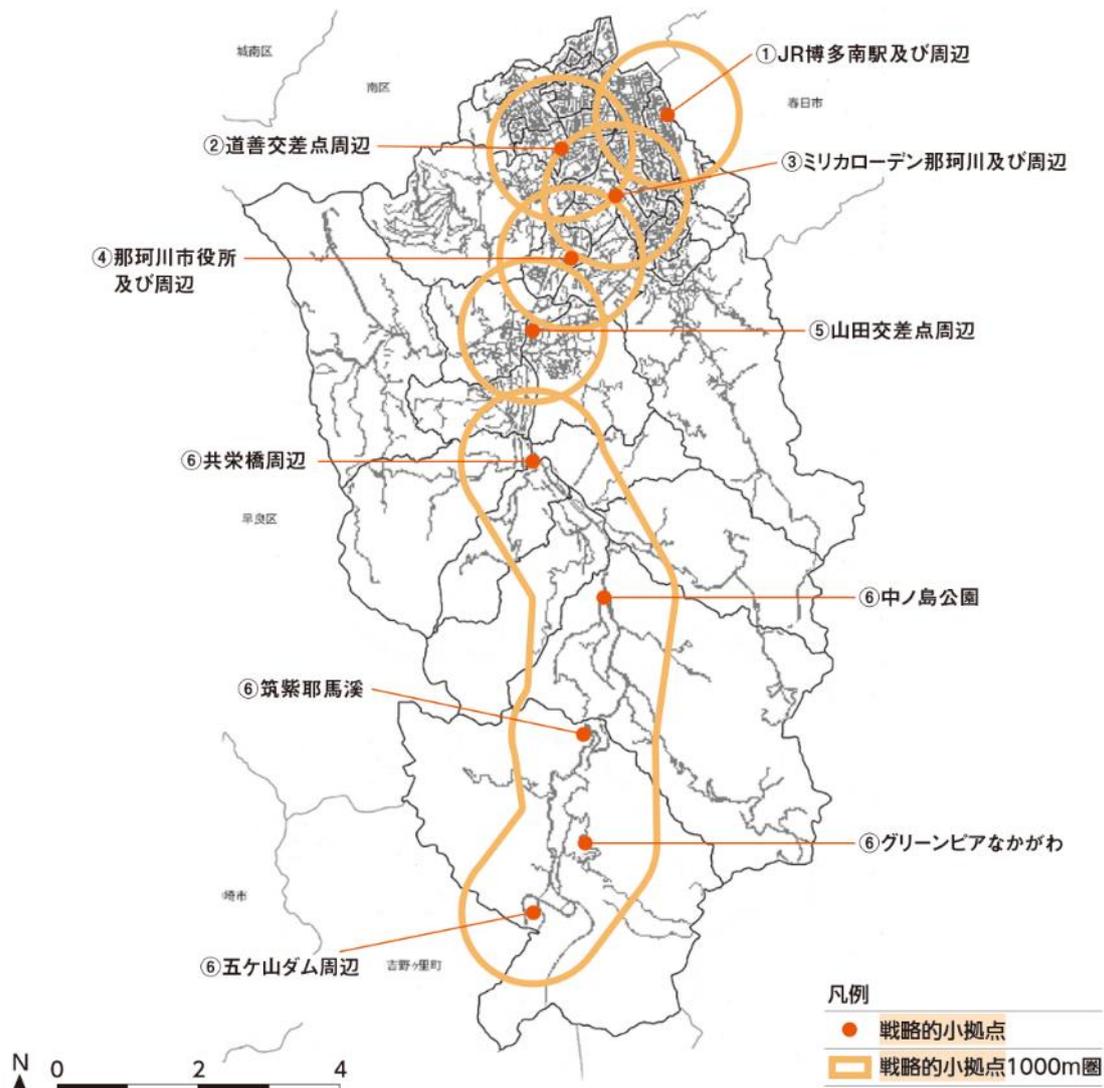
### ■基本目標

1. 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
2. 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

### ■戦略的小拠点の設定

市内の戦略的小拠点として、広域交通及び地域内交通の結節点や文化・商業施設の集積または自然環境に位置する集客施設に類する以下の拠点を設定し、各拠点の個別的戦略方向を示す。

- ①: JR博多南駅及び周辺
- ②: 道善交差点周辺
- ③: ミリカローデン那珂川及び周辺
- ④: 那珂川市役所及び周辺
- ⑤: 山田交差点周辺
- ⑥: 国道385号南部（共栄橋～中ノ島公園、筑紫耶馬溪～グリーンピアながわ・五ヶ山ダム周辺）





## 2-1-5 第3次那珂川市地域公共交通網形成計画（令和2年3月）

### ■計画期間

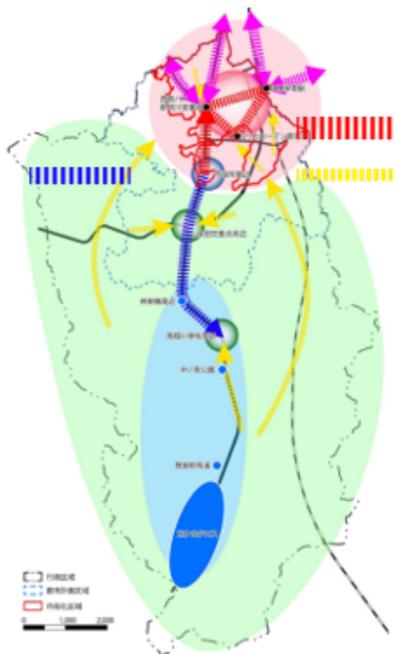
令和2年度(2020年度)～令和6年度(2024年度)

### ■基本方針

公共交通を必要とする市民の移動ニーズを踏まえ、公共交通機関の適切な役割分担のもと、必要な地域に必要な公共交通を導入することで、市民が生活に必要な目的地にアクセスするための持続可能な公共交通体系を構築する

### ■公共交通ネットワークのイメージ

交通軸	交通機関	位置づけ
広域交流軸	○JR博多南線 ○西鉄路線バス	市民生活に密接に関係する福岡都市圏との連携
市街地拠点連携軸	○かわせみバス ・片縄線 ・安徳線 ・南駅・ミリカ線 ・通勤かわせみ	拠点周辺に集積する都市機能の円滑な相互利用に向けた拠点間の連携
南北連携軸	○かわせみバス ・南畑線 ○西鉄路線バス(市の瀬補助系統)	市外や北部市街地の住民の自然環境の享受と南部地域住民の生活利便性の要となる南北連携
支線交通ネットワーク	○かわせみバス ・別所・井尻線 ・山田線 ・山田西・南駅線 ○デマンド交通	・中南部地域の集落を中心に運行し、中南部地域の集落から市街地・地域拠点へ移動するために幹線交通につなぐ支線交通 ・中南部地域の交通不便地における生活交通



市内外の多様なネットワーク（JR博多南線、バス、デマンド交通）

- 広域交流軸
- 市街地拠点連携軸
- 南北連携軸
- 支線交通ネットワーク

2-1-6 那珂川遊歩道整備基本構想（令和2年3月）

■整備方針

整備方針	基本方針										
① 連続性の確保	(1) 散策者が利活用しやすいよう遊歩道は分断しない。 (2) 河川沿いに連続性を保てない場合は、代替えルートを設定する。										
② 周遊ルートの構築	(1) 散策コースを設定する。 (2) 散策コース名を設定し、散策の目的を明確にする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #cccccc;">コース名</th> <th style="background-color: #cccccc;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #ffff00;">■ 那珂川町と福岡市を結ぶ那珂川の散策コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡市南区の遊歩道の利用を考えた周遊ルート</li> <li>・ 片縄地区住民の利用が中心</li> <li>・ 拠点整備を行えるスペース無し ※福岡市南区の河畔公園が拠点</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #92d050;">■ 都市と那珂川のネットワーク散策コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市部の公園、梶原川を結んだ周遊ルート</li> <li>・ 三師会の健康ウォーキングコースを一部取り入れ</li> <li>・ おさえ井堰横の水辺空間を拠点整備</li> <li>・ 既存の那珂川中学校横の遊歩道を有効活用</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffff00;">■ 都市と水辺・歴史の接続コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 右岸の東隈側は、都市部と田園部の接続となるルート</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ff00ff;">■ 水辺と歴史を学ぶ那珂川の散策コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裂田溝遊歩道、裂田溝公園、橋本橋下流の親水施設を結んだ周遊ルート</li> <li>・ 山田に地域交流拠点ができた場合は、地域交流拠点が拠点</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	コース名	概要	■ 那珂川町と福岡市を結ぶ那珂川の散策コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡市南区の遊歩道の利用を考えた周遊ルート</li> <li>・ 片縄地区住民の利用が中心</li> <li>・ 拠点整備を行えるスペース無し ※福岡市南区の河畔公園が拠点</li> </ul>	■ 都市と那珂川のネットワーク散策コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市部の公園、梶原川を結んだ周遊ルート</li> <li>・ 三師会の健康ウォーキングコースを一部取り入れ</li> <li>・ おさえ井堰横の水辺空間を拠点整備</li> <li>・ 既存の那珂川中学校横の遊歩道を有効活用</li> </ul>	■ 都市と水辺・歴史の接続コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 右岸の東隈側は、都市部と田園部の接続となるルート</li> </ul>	■ 水辺と歴史を学ぶ那珂川の散策コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裂田溝遊歩道、裂田溝公園、橋本橋下流の親水施設を結んだ周遊ルート</li> <li>・ 山田に地域交流拠点ができた場合は、地域交流拠点が拠点</li> </ul>
コース名	概要										
■ 那珂川町と福岡市を結ぶ那珂川の散策コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡市南区の遊歩道の利用を考えた周遊ルート</li> <li>・ 片縄地区住民の利用が中心</li> <li>・ 拠点整備を行えるスペース無し ※福岡市南区の河畔公園が拠点</li> </ul>										
■ 都市と那珂川のネットワーク散策コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市部の公園、梶原川を結んだ周遊ルート</li> <li>・ 三師会の健康ウォーキングコースを一部取り入れ</li> <li>・ おさえ井堰横の水辺空間を拠点整備</li> <li>・ 既存の那珂川中学校横の遊歩道を有効活用</li> </ul>										
■ 都市と水辺・歴史の接続コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 右岸の東隈側は、都市部と田園部の接続となるルート</li> </ul>										
■ 水辺と歴史を学ぶ那珂川の散策コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裂田溝遊歩道、裂田溝公園、橋本橋下流の親水施設を結んだ周遊ルート</li> <li>・ 山田に地域交流拠点ができた場合は、地域交流拠点が拠点</li> </ul>										
③ 利用者への配慮	(1) 遊歩道利用者の目線で施設を配置する。 (2) 「利便性」、「景観性」に配慮する。										



おさえ井堰の拠点整備イメージ  
(上流天徳橋から望む)



おぎわら橋の遊歩道整備イメージ  
(下流おぎわら橋から望む)



## 2-2 社会動向の整理

社会的要請の変化を踏まえ、今後求められるまちづくりの方向性を整理します。

### 2-2-1 人口減少・高齢社会への対応

我が国の総人口は平成20年(2008年)の1億2,808万人をピークに減少に転じ、令和47年(2065年)にはピーク時の7割弱である、約8,808万人(高齢化率38.4%)に減少すると推計されている。

人口減少に伴う地域活力の低下は全国的にも多くの都市で課題となっている一方で、長寿命化により、健康寿命も延びることが考えられ、新たに自由時間が創出される。

#### ①地域活性化の推進

「まち」を活性化するため、地方都市における都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成(コンパクト+ネットワーク)の推進や中山間地域等における「小さな拠点」の形成、地方への新たな「ひと」の流れをつくるための二地域居住の本格的推進や既存住宅の流通促進等による住み替えしやすい環境整備を行っている。

本市においても、「コンパクトシティの実現に向けた取り組み」「地域特性を活かしたまちづくり・基盤整備」「地域の連携・交流の促進」等に取り組む必要がある。

#### ②観光まちづくり

観光は、国内の人口減少・少子高齢化が進展する中、国内外からの交流人口の拡大によって地域の活力を維持するために、極めて重要な分野であり、訪日外国人旅行者数は平成30年(2018年)には3,119万人であり、対前年比8.7%増、6年連続過去最高を更新している。

新型コロナウイルス感染拡大による移動制限等により、現在は厳しい状況におかれているが、国内における旅行消費額の8割以上は日本人の国内旅行であり、そのうち6割は地方部で消費されている。また、消費単価や消費額は増加傾向にあり、旅行の高付加価値化が重要とされている。

本市においても、令和元年(2019年)7月に隣接する吉野ヶ里町と観光振興に関する連携協定を締結し、イベントの共同実施や情報発信を連携して取り組んでいる。観光資源の活用による地域の活力維持に向けて、「良好な景観の形成」や「自然・歴史や文化を活かした地域づくり」に取り組む必要がある。

#### ③官民連携の推進

人口減少・少子高齢化や厳しい財政状況において、これまで行政が担ってきた役割のすべてを今後も行政が担い続けることは難しくなっている。近年では、公園や道路空間、河川空間などの法制度の改正により、公共空間を活用した地域のにぎわいや交流の場の創出による魅力向上や、道路協力団体や河川協力団体を活用した施設の管理など、官民連携の機運が高まっている。

本市においても、行政だけでなく、企業、NPO、地域団体・個人といった多様な主体との連携や役割分担が求められている。

### 2-2-2 安全・安心社会の構築

近年では、東日本大震災等の未曾有の大災害、豪雨や台風等、多くの自然災害に見舞われている。特に近年は雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しており、安全・安心が脅かされつつある。これらの頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害ハザードエリアにおける新規立地の抑制、移転の促進、防災まちづくりの推進の観点から総合的な対策を講じることが喫緊の課題であり、法改正等の取り組みが進められつつある。

本市においても、防災・減災対策を強化し、命と暮らしを守る必要がある。

### 2-2-3 持続可能な社会の実現

令和2年度(2020年度)以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとして採択された「パリ協定」を踏まえ、平成28年(2016年)5月に国は「地球温暖化対策計画」を閣議決定し、国土交通省としては、住宅・建築物の省エネ化や自動車単体対策、低炭素まちづくりの推進等、多様な政策展開に取り組むこととしている。

本市においても、公共交通機関の利用促進(駅のバリアフリー化の推進や情報化の推進による利便性向上)、住宅・建築物の省エネ性能の向上、緑化の推進(都市公園の整備や道路、公共施設や民有地における緑化)などの「地球温暖化対策」や、建設リサイクルや下水汚泥のリサイクル、木材利用の推進など「循環型社会の形成」に向けて取り組む必要がある。

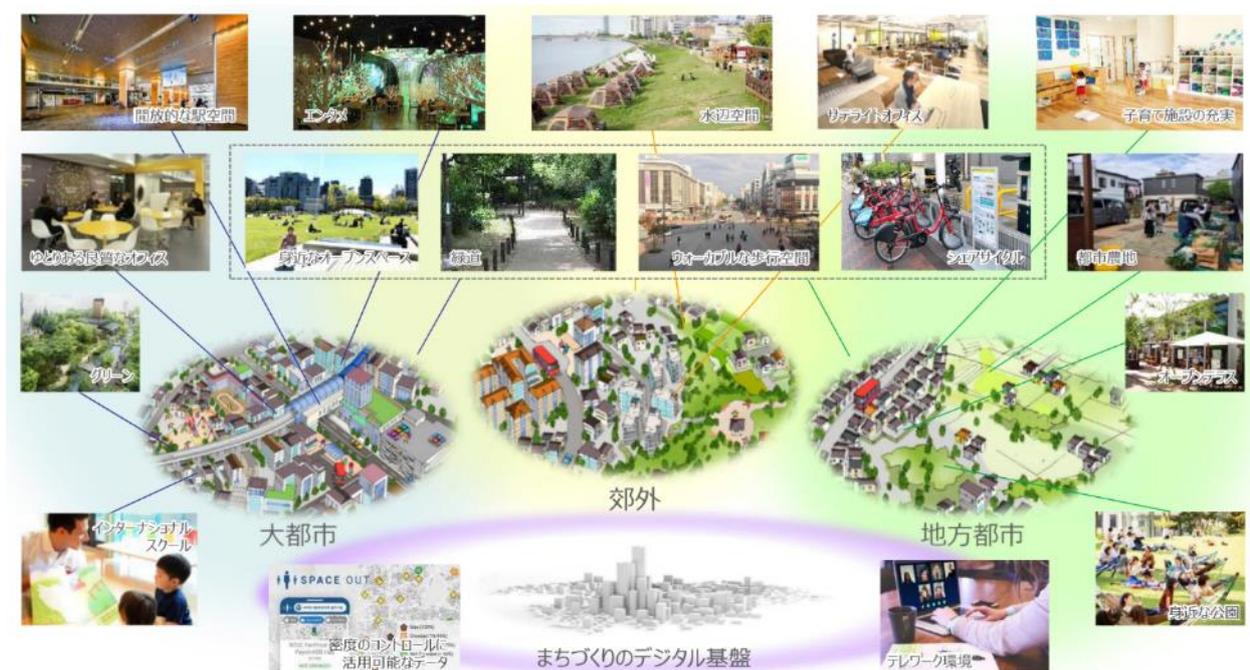
### 2-2-4 新型コロナ危機を契機としたまちづくり

新型コロナウイルス感染症の拡大により、テレワークの進展による働く場と居住の場の融合や、ゆとりあるオープンスペースへのニーズの高まりなど、人々の生活や考え方に変化が生じており、都市の持つ集積のメリットは活かしつつ、新型コロナ危機による変化への対応が求められている。

そのような状況を踏まえ、国土交通省は、今後のまちづくりの方向性のイメージとして、「人々の働く場所・住む場所の選択肢を広げる」「規模(大都市・郊外・地方都市)の異なる複数の拠点の形成と役割分担」「複数の用途が融合した職住近接に対応し、様々なニーズ、変化に柔軟に対応できるようなまちづくり」を示している。

本市においても、これらの動きに柔軟に対応しながら、今後も引き続き魅力的なまちづくりを進める必要がある。

#### ■新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性(イメージ)



資料：新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性(論点整理)、令和2年8月31日、国土交通省

## 第3章 市民意向

### 3-1 アンケートの実施概要

前計画策定時に実施した住民意向調査(平成 21 年(2009 年)3 月実施)と、最近実施したアンケート調査(A~C調査)による市民の意向を比較し、計画に反映する。

アンケートはこれまで実施した下記 3 種類の結果を活用する。

#### ■各アンケート調査の概要

	A 立地適正化計画策定にかかるアンケート調査	B 住民アンケート	C 総合計画策定にかかるアンケート調査
調査期間	平成 30 年(2018 年)10 月 18 日~11 月 2 日	平成 31 年(2019 年)1 月 16 日~2 月 10 日	令和元年(2019 年)9 月 2 日~9 月 20 日
配布数	2,700	2,000	2,000
対象	市内在住 18 歳以上	市内在住 18 歳以上	市内在住 18 歳以上
回収数	955	638	593
回答率	35.4%	32.1%	29.65%
調査目的	立地適正化計画策定にあたって市民意見を反映するため	那珂川市が実施している取り組みやサービスに対する住民の皆さまの満足度、重要度及び優先度を把握し、今後のまちづくりに活用するため	総合計画策定にあたって市民意見を反映するため

#### ■前計画策定時の実施したアンケートと A~C 調査の対応状況

H21.3 実施(前計画策定時)	類似の項目が確認できる既存調査
(1)日常の行動場所	A調査 問 8~問 10
(2)まちの住み心地	A調査 問 4、B調査
(3)まちづくりの方向性	A調査 問 14、問 18 B調査、C調査 問 15、問 19
(4)将来の地区像	C調査 問 8、問 9
(5)取り組みの満足度・重要度	B調査、C調査 問 7

### 3-2 調査結果

#### 3-2-1 日常の行動場所

- 日常生活品：前は9割以上が町内であったが、現在は74%であり、市内で買う人が減少。
- 休日のショッピング(買い回り品)：前は福岡市が約5割、春日市が約2割であったが、現在は春日市45%(フォレストシティだけで32%)、福岡市15%と春日市の比率がかなり高い。
- 通院：前は市内68%、福岡市23%、春日市6%であるのに対し、現在は市内52%、福岡市19%、春日市13%と市内の割合がやや低下。
- 移動手段はいずれも自家用車やバイクが圧倒的に多い。

#### 【前回】

(%)

項目	日常生活品の購入	休日のショッピング	飲食を伴う歓談など	診察や通院する医療機関	美術館や博物館など	スポーツ活動	映画鑑賞、スポーツ観戦
町内	90.5	18.3	53.3	67.9	1.8	54.9	1.9
福岡市中央区	0.8	22.2	13.3	3.3	29.9	2.2	22.8
福岡市博多区	0.3	3.7	5.2	2.6	2.5	1.6	8.7
福岡市南区	2.4	1.8	4.6	10.2	0.3	3.1	0.3
福岡市その他	1.0	17.7	14.2	6.5	35.9	7.8	35.0
大野城市	0.5	2.1	1.2	0.7	1.0	0.5	17.1
春日市	3.2	19.4	5.2	6.2	0.2	10.7	4.8
太宰府市	0.5	0.4	0.0	0.3	17.0	0.7	0.2
筑紫野市	0.1	6.7	0.9	0.3	0.7	0.3	2.4
その他	0.7	7.7	2.1	2.0	10.7	18.2	6.8
合計	100	100	100	100	100	100	100

#### 【A調査】

##### ●場所

	食料品や飲料などの買い物		衣料品、家具・家電や趣味品など(買い回り品)の買い物		病院や診療所	
1. 市内	702	74%	97	10%	499	52%
2. 市外	136	14%	766	80%	326	34%
福岡市	42	4%	141	15%	179	19%
春日市	76	8%	427	45%	126	13%
その他	18	2%	198	21%	21	2%
無回答	117	12%	92	10%	130	14%
計	955	100%	955	100%	955	100%

##### ●主な移動手段

	食料品や飲料などの買い物		衣料品、家具・家電や趣味品など(買い回り品)の買い物		病院や診療所	
1. 徒歩	152	17%	12	1%	96	11%
2. 自転車	54	6%	22	2%	48	5%
3. 自家用車・バイク	626	71%	737	82%	571	64%
4. バス	12	1%	28	3%	39	4%
5. タクシー	1	0%	0	0%	3	0%
6. 博多南線	11	1%	47	5%	14	2%
7. その他	1	0%	5	1%	1	0%
無回答	22	3%	49	5%	122	14%
計	879	100%	900	100%	894	100%

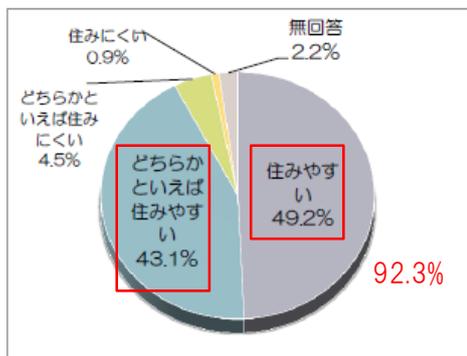
### 3-2-2 まちの住み心地

#### ■居住環境

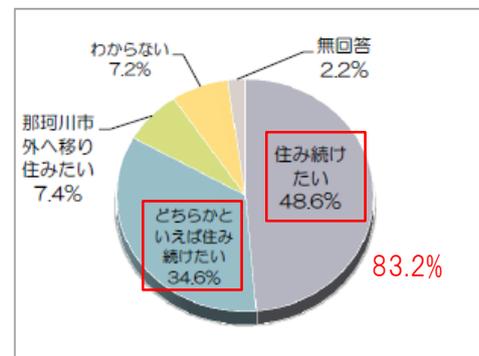
- 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」が 9 割を超え、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」も 8 割を超えており、満足度が高い。
- 理由としては、利便性の良さ、愛着、自然環境の豊かさが多い。
- 利便性や自然環境の豊かさは市の魅力や誇りともなっている。

#### 【B調査】

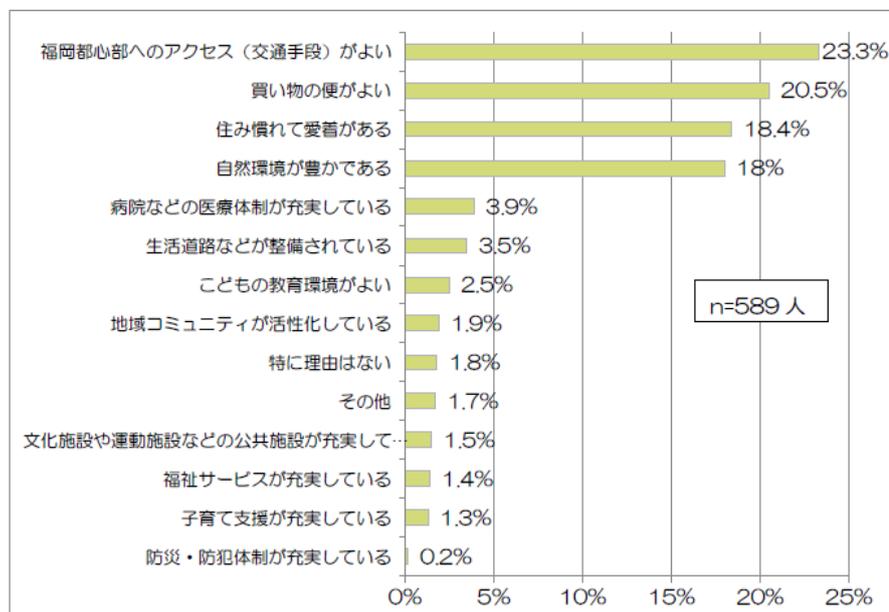
①那珂川市は住みやすいですか



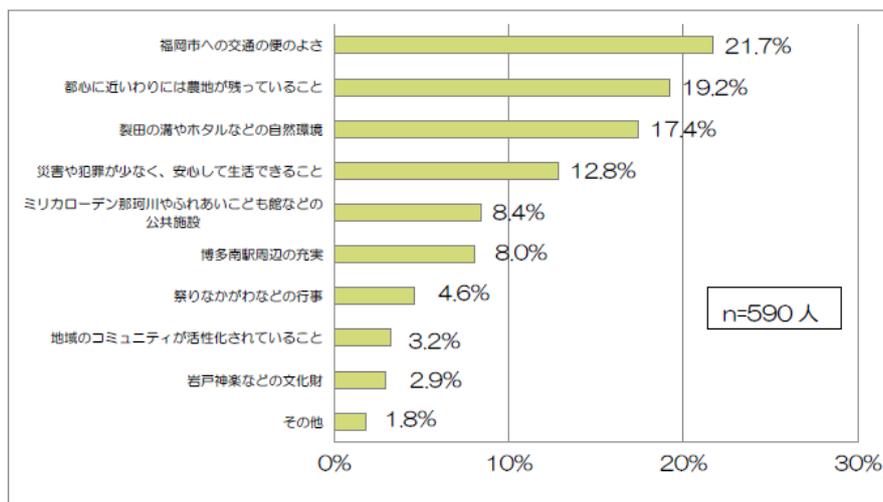
②那珂川市に住み続けたいと思いますか



③上記②で「住み続けたい (314 人)」「どちらかといえば住み続けたい (275 人)」と回答された場合の理由について (3つまで回答可)



⑥那珂川市に魅力や誇りを感じるのどのようなことですか（3つまで回答可）



■改善すべき点

- 「公共交通の利便性」を求める意見が最も多く、次いで「日常利用する店舗の充実」が多い。

【A調査】

問4 現在のお住まいの地域(小学校区)に関して、改善されれば良いと思うことは何ですか。最もあてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

選択肢	件数	比率
1. 日常利用する店舗などの充実	132	14.5%
2. 病院、福祉施設などの充実	94	10.3%
3. 幼稚園、保育所、学校などの充実	31	3.4%
4. 市役所・支所や図書館、文化ホールなどの公共施設の充実	45	5.0%
5. 道路や公園などの都市基盤、まちなみの整備の充実	128	14.1%
6. バス、鉄道などの公共交通の利便性	292	32.1%
7. 防犯、防災上の安全性	110	12.1%
8. その他	41	4.5%
無回答	36	4.0%
計	909	100.0%

複数回答による集計除外46名

### 3-2-3 まちづくりの方向性

#### ■まちづくりの方向性

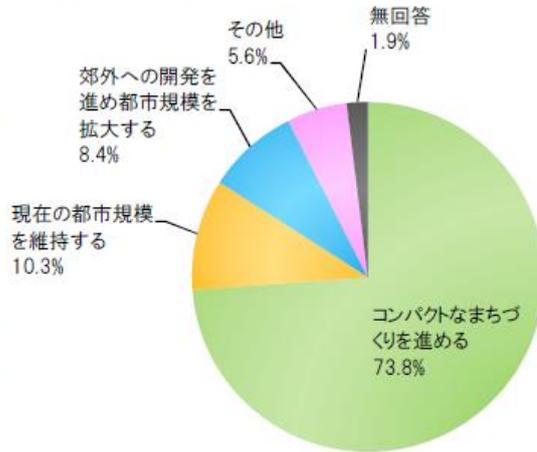
●約7割の市民が「コンパクトなまちづくりを進める」と回答。

#### 【A調査】

問14 那珂川市が持続的な発展を遂げていくためには、今後どのようなまちづくりを行っていくべきだと思いますか。最もあてはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

選択肢	件数	比率
1. コンパクトなまちづくりを進める	702	73.8%
2. 現在の都市規模を維持する	98	10.3%
3. 郊外への開発を進め都市規模を拡大する	80	8.4%
4. その他	53	5.6%
無回答	18	1.9%
計	951	100.0%

複数回答による集計除外4名



#### ■市街地の魅力向上のために充実すべきこと

●約6割の市民が市街地の魅力向上のために「様々な店舗がそろい買い物などを楽めること」、「働く場があること」や「まちなかでも水や緑を感じられること」が必要と回答

#### 【A調査】

問18 那珂川市の市街地の魅力を高めるために、特に充実すべきこととして、よくあてはまるものを最大5つ選び、番号を○で囲んでください。

選択肢	件数	比率
1. 雰囲気の良いカフェなどでゆったりと時間をすごせること	391	40.9%
2. 美術鑑賞や読書、映画・舞台鑑賞など文化活動が楽しめること	442	46.3%
3. 様々な店舗がそろい買い物などを楽めること	651	68.2%
4. 多様なイベントに参加できること	172	18.0%
5. まちなかでも水や緑を感じられること	554	58.0%
6. 体を動かし健康づくりができること	406	42.5%
7. 人との交流を楽しめること	244	25.5%
8. 市の歴史や観光情報を得られること	133	13.9%
9. 働く場があること	557	58.3%
10. その他	76	8.0%
11. 特になし	24	2.5%
無回答	20	2.1%
計	3,670	

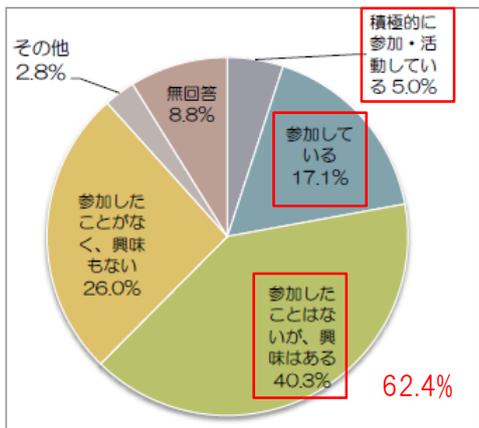
複数回答

■市民協働の取組

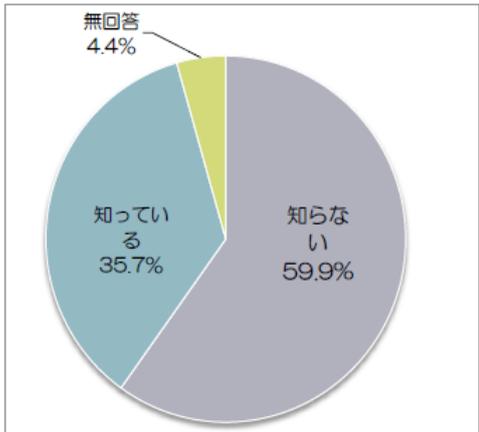
- 地域のボランティア活動に「参加している」あるいは「興味がある」市民は約6割で意欲が高い。
- 一方で、ボランティア活動の一つである公共施設クリーンパートナー制度の認知度は低い。

【B調査】

3. 地域のボランティア活動に関して、参加状況を教えてください



23. 市民がボランティア活動として道路の歩道や河川の美化と清掃を支援する那珂川市公共施設クリーンパートナー制度を知っていますか



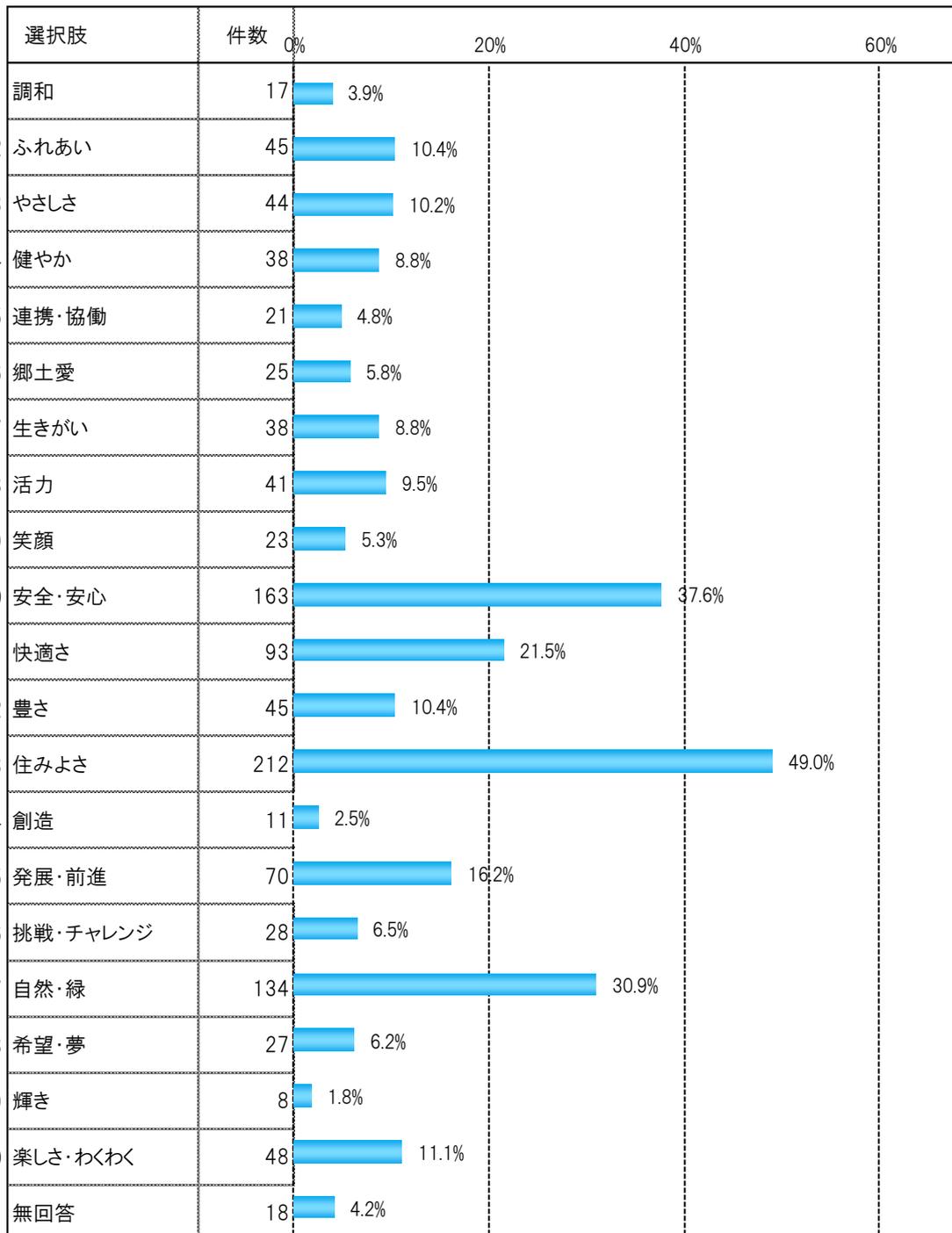
## 3-2-4 将来の地区像

## ■これからの那珂川市のまちづくりを進めていく上で、重要な「言葉（キーワード）」

●約5割の市民が「住みよさ」という言葉が重要だと回答。次いで、「安全・安心」、「自然・緑」が多い。

## 【C調査】

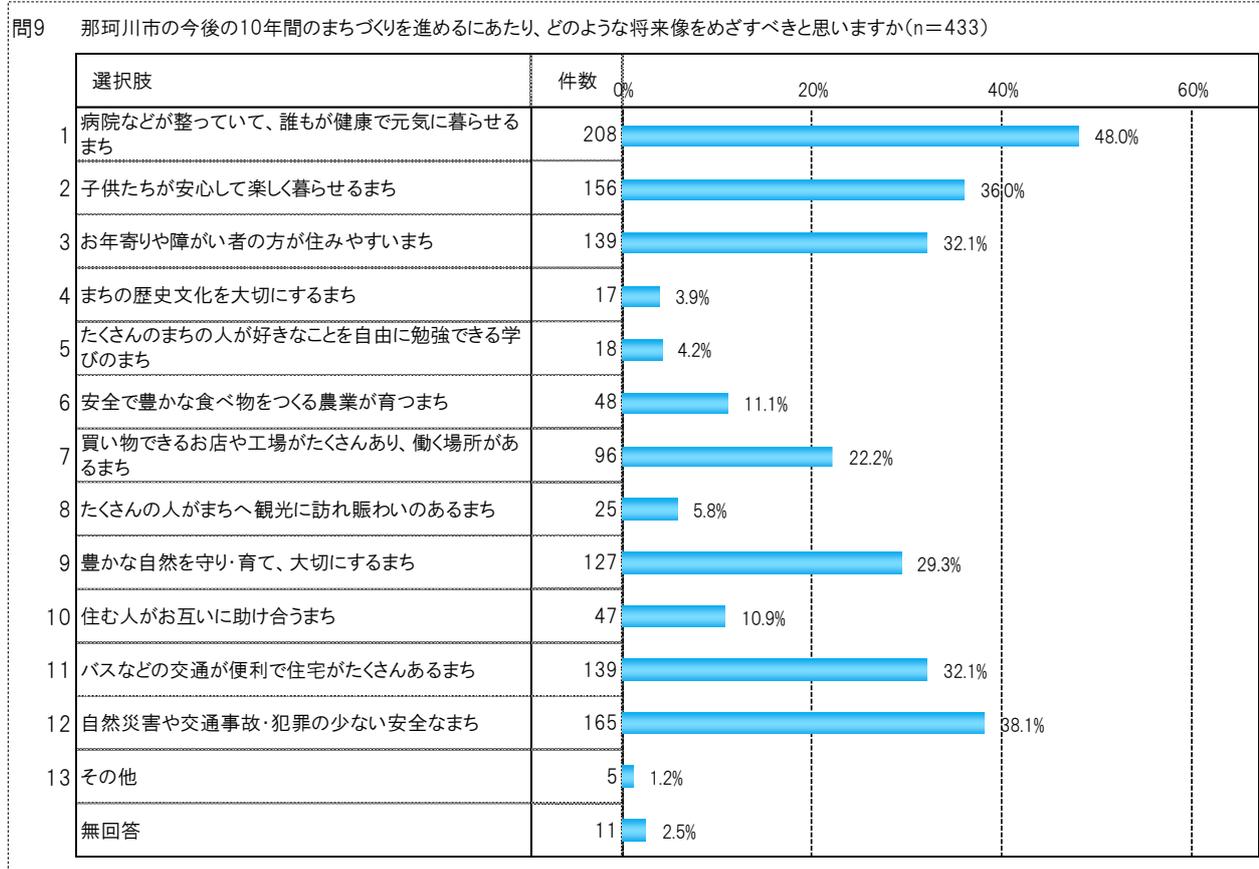
問8 これからの新しい那珂川市のまちづくりを進めていく上で、どのような「言葉（キーワード）」が大事であると思いますか。(n=433)



■那珂川市は今後10年間どのような将来像をめざすべきか

●約5割の市民が「病院などが整い、誰もが健康に暮らせるまち」と回答。

【C調査】

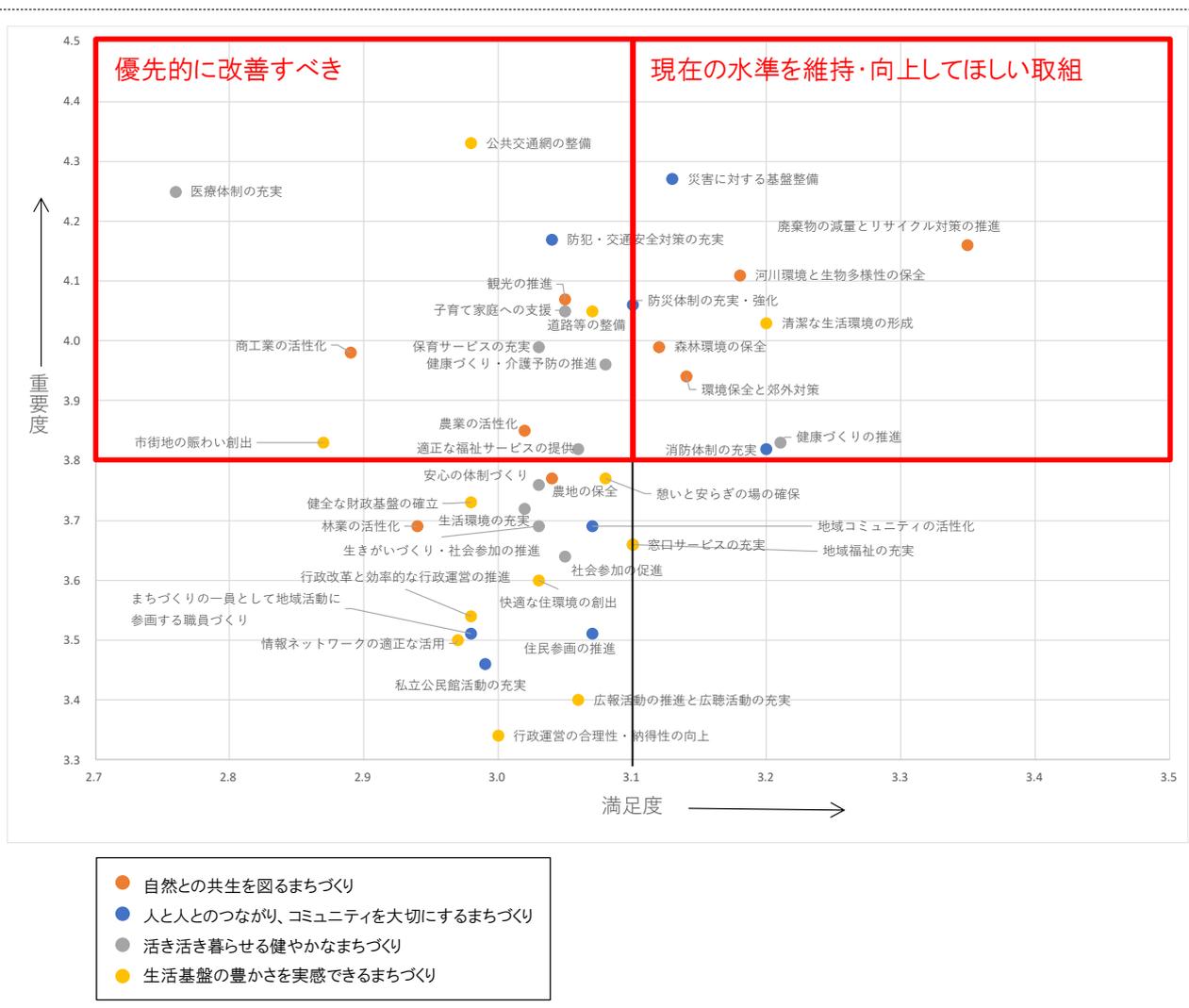


### 3-2-5 取組の満足度・重要度

- 重要度(高い順) 公共交通網の整備 4.33、災害に対する基盤整備 4.27、医療体制の充実 4.25 であり、「自然との共生を図るまちづくり」は全体的に重要度が高い。
- 満足度(低い順) 医療体制の充実 2.76、市街地のにぎわい創出 2.87、商工業の活性化 2.89 であり、「生き生き暮らせる健やかなまちづくり」や「生活基盤の豊かさを実感できるまちづくり」は全体的に満足度が低い。
- 優先度(高い順) 災害に対する基盤整備(継続した対策が必要)、公共交通網の整備(改善が必要)、観光の推進(改善が必要)
- 市街地のにぎわい創出について、優先度は低いものの、満足度が低い。

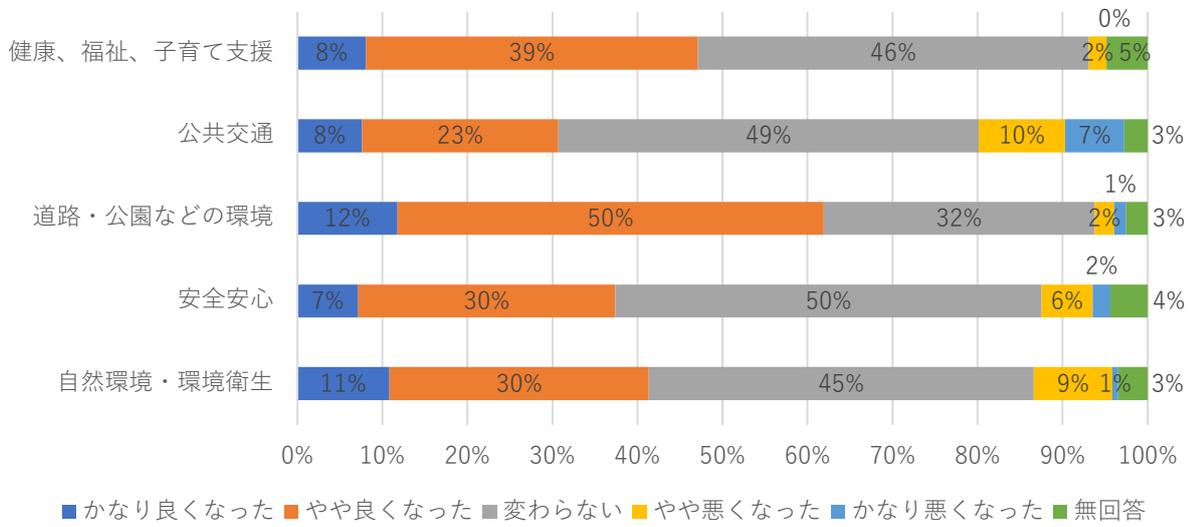
※各項目の満足度の回答について、不満…1、やや不満…2、どちらでもない…3、やや満足…4、満足…5として平均値を算出した。同様に、重要度は低い…1、やや低い…2、どちらでもない…3、やや高い…4、高い…5として平均値を算出した。

#### 【B調査】



【C調査】

Q 那珂川市は10年前と比較して、どう変わったか



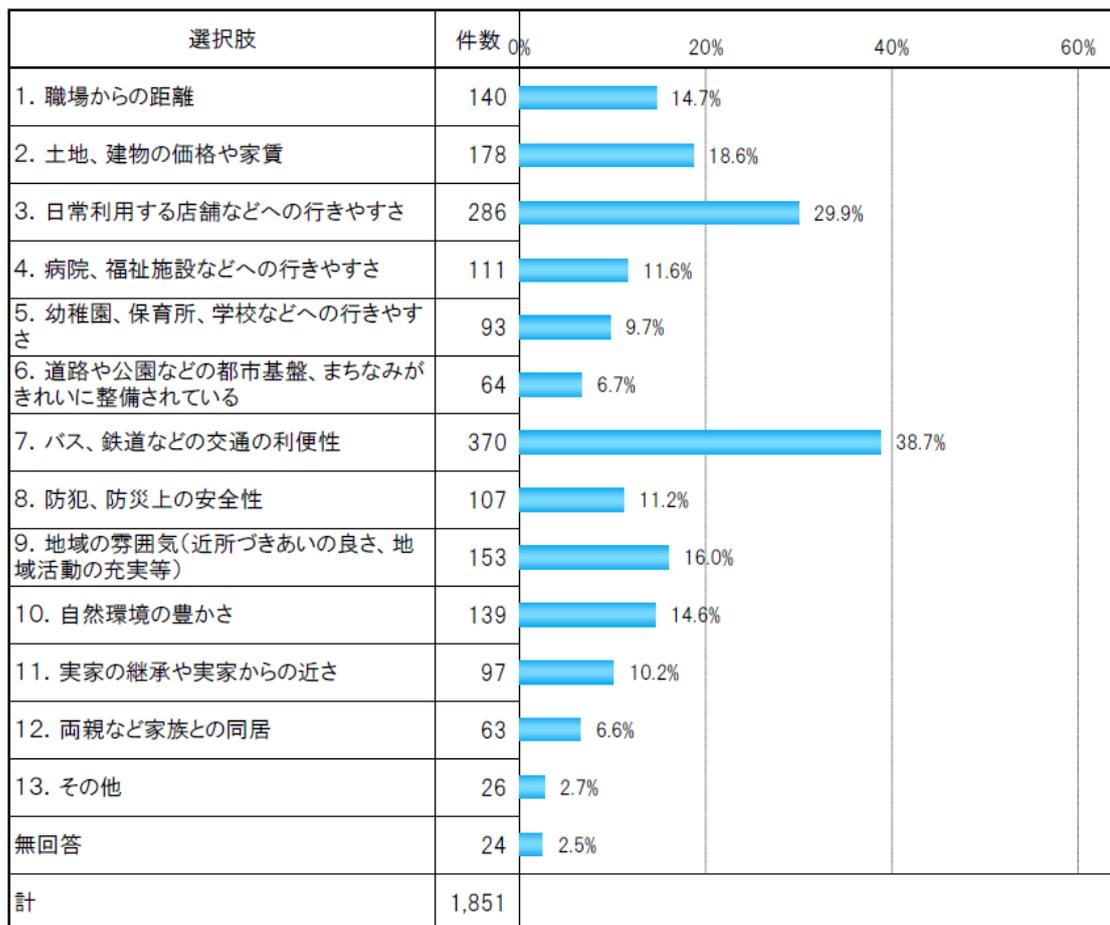
## 3-2-6 その他

## ■住む場所を決める条件

●「交通の便利性」が最も多く、次いで「日常利用する店舗などへの行きやすさ」である。

## 【A調査】

問7 お住まいを決める条件として重要なことは何ですか。よくあてはまるものを2つ選び、番号を○で囲んでください。



複数回答